

主な質疑応答

Q：通期予想で、建築市場の競争が激しいこともあり建築部門で受注の見通しを下げましたが、他社と比較してその数値だけを見ると苦戦しているように見えますが状況と今後の取組みはどうお考えでしょうか。

A：建築市場の状況をご説明いたします。日本建設業連合会が発表しています会員 95 社の上期の受注実績では、前年同期比で 7.7%の減少となっております。民間工事は 15.5%の減少、官庁工事は 16.4%の増加となっております。ご承知のとおり、建築市場は民間工事が主体となっておりますので、前年対比の約 16%減の市場動向を踏まえて下期の受注目標を定めています。また、受注競争も激化しておりまして、この業界ではスーパー、準大手、中堅ゼネコンとセグメントがありますが、競って受注競争を行っている状況です。当社の上期の実績では、先ほどご説明申し上げました通り前期からの期ずれの案件を期初に受注したこともあり、市場が減少している中でも前年比で増加とすることが出来ております。ただ、内訳としましては小規模の案件も多く、下期に予定する案件への要員の問題もあり、積極的に受注へ向かうことが出来ないのではないかと見立てております。このようなことから期初計画目標対比 20%弱減の見通しとしております。

Q：製造事業の通期粗利が上期の実績と比較するとだいぶ落ち込むように見えますが、今後どのように見通されているのでしょうか。

A：当社の製造事業についてご説明いたします。当社のグループ会社でコンクリート二次製品を製造している事業となります。上期の実績値につきましては、資料 10 ページのグラフでお示しのとおり「売上総利益」が昨年実績 42 百万円に対して 4 億 75 百万円と昨年と比較して大きく向上しています。一方で通期の見込みは、資料 16 ページの「セグメント別業績予想」に記載のとおり 1 億円となっております。こちらの数値は連結決算の内部取引消去を行う前と後の数値であるため、このように大きな差異が出ております。この 4 億 75 百万円はグループ会社の売上総利益の合算値であります。この数値を連結決算の内部取引消去を行いますと売上総利益は、26 百万円となります。この数値は、別途配布しております「第 2 四半期決算短信」の最終ページ「補足情報」に記載のとおりとなっております。よって、見通しで 1 億円と予想しておりますので、下期で 74 百万円を見込んでいるということとなります。なお、前期と比べて今期大きく向上している要因は、当社が国内グループ会社への発注単価を見直したことによるものであります。

以上